

# 脇芽伸ばし トマト増収

長崎県農林技術開発センターは、トマト栽培で脇芽を伸ばして茎を増やす「増枝」による増収効果を明らかにした。11月6月に収穫する作型で、1月中旬に増枝すると5、6月の収量が20%以上増えた。葉が果実への直射日光を防ぎ、裂果を減らす効果もある。試算では、10坪当たりの年間販売額が約59万円（6

## 長崎県農技センター

%)増えるとしている。定植時は茎を1本で仕立て、3株に1株の割合で脇芽を伸ばして茎を2本にする。茎の本数は10坪当たり2800本から3700本に増える。1月下旬以降、日射量が増えるに伴い葉の枚数と面積を増やし、光合成量を増やす仕組み。開花花房直下の脇芽を利用する。試験によると、6月

## 「増枝」、裂果防止にも

の10坪当たり収量が22%増加。2019年はシーズンの収量合計が21・4トンで、増枝なしの区より20%多かった。裂果の発生を抑制する効果もみられた。

処理により誘引、収穫などの労力が増えるが、追加資材は不要。センターの北島有美子主任研究員は「肥料代などが高騰しており、コストを下げずに収量を増やして所得増に貢献したい」と話す。センターによると増枝はオランダから入ってきた比較的新しい技術。これまで脇芽は全て除去するのが一般的だった。着果負担で実が大きくならないリスクもあり、増枝の適切な時期や本数など詳しく検討する考えだ。



増枝により茎が2本に増えたトマト（長崎県諫早市で撮影のため茎を誘引ひもから外しています）